


令和6年 1月 22日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院歯学研究科長 殿

主査 伊藤 修一
副査 越野 寿
副査 廣瀬 弘奈



今般 山村 有希子 にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

- 1 学位論文題目 歯科衛生学生のための5A・5Rに基づいた「禁煙支援」の教育プログラムの構築
- 2 論文要旨 別添
- 3 学位論文審査の要旨 別添（様式第12号）
- 4 最終試験の要旨 別添（様式第13号）

以上の結果 山村 有希子 は博士（歯学）の学位を授与する資格のものと判定する。

学位論文審査の要旨

主査 伊藤 修一
副査 越野 寿
副査 廣瀬 弥奈



氏 名 山村 有希子

学位論文題目 歯科衛生学生のための5A・5Rに基づいた「禁煙支援」の教育プログラムの構築

以下本文（15行目から1000字以内）

本研究では歯科衛生士による禁煙支援を推進するために、歯科衛生士教育において具体的な禁煙介入を修得するための教育の検討が必要であると考え、禁煙支援教育の現状を調査し、その結果に基づいて、教育プログラムを開発し、その教育効果の検証を行うことを目的とした。

歯科衛生学生のための禁煙支援の教育プログラムの作成するために、WHOが推奨する短時間でできる簡易禁煙介入法である5A・5Rを利用し、歯科衛生士養成機関で標準的な教育が可能となる教育プログラムの作成を行った。

歯科衛生学生のための5A・5Rに基づいた禁煙支援の教育プログラムの効果の検証するために、専門学校5校・短期大学1校・大学1校の歯科衛生士養成機関において、331名の学生を対象に研究を実施した。3本の動画コンテンツの視聴前後に、計3回にわたり、5A・5Rの理解度と自己効力感について、無記名自記式の配票調査を行った。「専門学校」と「短期大学・大学」の2群に分け、フリードマン検定および下位検定を行った結果、専門学校および短期大学・大学のどちらも、すべての項目で段階的にスコアが有意に上昇していた ($p < 0.001$)。また、効果量の分析を行ったところ、専門学校では、講義の動画コンテンツ視聴前後の、5Aおよび5Rの理解度、自己効力感で0.5以上の大きな効果を確認できた。歯科衛生士養成機関での禁煙支援教育に存在する問題の解決を目的に開発した5A・5Rを利用した教育プログラムの有効性が確認された。本教育プログラムによって幅広い教育機関での禁煙支援教育の実施が可能になると考えられる。

本研究は周到な研究計画と統計解析とによって遂行され、また得られた結果は歯科医学のみならず、健康科学ならびに関連学科学の進歩と発展に寄与することが大きいと判断される。また、提出された本論文は多くの文献を参考に、方法、結果についての充分かつ妥当な考察が加えられており、審査の結果、学位授与に値すると判定した。

最終試験 (学力の確認) の要旨

主査 伊藤 修一
副査 越野 寿
副査 廣瀬 跡奈
副査



氏 名 山村 有希子

以下本文 (10行目から200字以内)

「歯科衛生学生のための5A・5Rに基づいた「禁煙支援」の教育プログラムの構築」について、研究発表会および論文審査に際し、研究目的と得られた成果を明確に説明し、質疑に対して適切な回答を為し得たので、学位授与に相応しい学力があるものと認められた。